

人づくり まちづくり 情報誌

あくていぶ

No.

66

平成29年(2017)

9月15日号



わがまちたかつき
切り絵紀行

「三島江のコスモス」

切り絵 作：生地 高芳(高槻市在住)

特集

LGBTを考える

「あくていぶ」は行動的、活動的な心と心のふれあいを求めて名づけられました



LGBT を考える まずは知ることから始めませんか？

LGBTという言葉、いま初めて聞いたかもしれません。LGBTとは、レズビアン(L)・ゲイ(G)・バイセクシュアル(B)・トランスジェンダー(T)の頭文字をとったもので、性的マイノリティの総称のひとつとして語られることもあります。LGBTの人口は7.6%にあたるという報告書(電通ダイバーシティラボ「LGBT調査2015」)もあり、左利き、AB型の人々が人口に占める割合とほぼ同じ、また学校の中では、1クラス(30人~40人)に2人はいるような身近な存在で、いじめや暴力被害にあっているという実態が報告されています。7.6%という数字ならLGBTが知り合いにいないはずなのに、実際には、身近なところで存在を感じたことがない人が大多数でしょう。気づかれないように、無理をして笑顔を作っている人たちが必ずどこかにいます。

今号では、「自分は何者なのか」そんな悩みを抱えてきた方から頂いた手記を取り上げ、性別のあり方に苦しみながら生きている人たちがいることを、まずは知ることからはじめ、一緒に考えてみませんか。

「LGBTなどの性的マイノリティと私と学校生活」

生物学的に正確に調べたことはありませんが、私は身体的に男性(=戸籍上も男性)として生まれました。しかし、生活や仕事面での服装や言葉遣いなどは、いわゆる男性的に生きていますが、心の中では男性でも女性でもないし、どちらもあるようにも感じています。特に性別欄は、どちらか丸をつけるのに非常に苦労します。男性が恋愛対象となることもあれば、女性の時もあります。しかし、パートナーとして望む相手の性別は、男性だけです。最近メディア等で、性的マイノリティ(少数者)の総称のひとつとして、LGBT(エルジービィティー)という用語を見聞きされると思います。実は、私はそれら4つの内、どれにも当てはめることはできません。このような僕が、こどもの頃、特に学校生活においてどうだったかを今回お伝えしたいと思います。

自分の性別について違和感を自覚したのは幼稚園の頃

「もっと男らしくしなさい」「女の子とばかり遊ぶんじゃない。男の子と遊びなさい」幼稚園の先生に言われた言葉です。当時、僕は3歳。「どうして、こんなこと言われなあかんの?」「このことで怒られるの嫌やなあ。」と感じていました。その時から「男の子って?女の子って何?」「僕の話



し方や態度はまわりと違う。迷惑をかけているから、直さなあかんのや」、そう意識するようになりました。

一般的には、物心がつく3~4歳頃、自分の性別が男なのか女なのかを認識すると言われていました。岡山大学病院ジェンダークリニックを受診して性同一性障害の診断を受けた1,167名を対象とした調査の結果では、その56.6%が小学生入学以前に、89.7%が中学生までに性別違和を自覚していることが分かっています^(※1)。

一番つらかったこと…先生や大人からの言葉

小学校に入ると、今度は「オカマっぽくするんじゃない」「オカマはシケイだ」「チンコついてんのかよ」「男ならこのぐらい我慢できるだろ」などと言われてたり、笑いのネタにされたり、どつかれたり…すべて先生の言動です。そうすると、どんなことが起こると思いますか?同級生がおとなの真似をして、同じことを言う。同じことをする。仲間外れになり、遊ぶ人がいなくなる。プールの時やトイレでパンツを脱がされる…などなど。当時の僕は、どうすることもできませんでした。しかし、一つ思うのは、同級生から受けたことが辛いのではなく、先生やおとなから言われたことが、一番辛かったこと。そして、今でも胸をしめつけられる思いになるということです。中学生の頃には、寝る前の布団の中で、「明

日、朝がこなければいいのに」「このまま首を絞めて死ねたら楽だろうな」と何度も思ったこともありました。

LGBT当事者を対象としたインターネット調査では、全回答者の約7割が「身体的暴力」「言葉による暴力」「性的な暴力(服を脱がされる・恥ずかしいことを強制)」「無視・仲間はずれ」のいずれかを経験していると言われています^(※2)。また、ゲイ・バイセクシュアル男性を対象に行った調査では、65.9%が自殺を考えたことがあり、14.0%は実際に自殺未遂の経験があることが報告されています^(※3)。その背景に、いじめや暴力、性的マイノリティへの無理解や偏見が影響を及ぼしていると言われています。

こどもにとって、学校は社会の鏡だと思います。学校でどのような体験をしたかが、後の人生に大きく影響します。自分が否定される、攻撃される環境の中で成長せざるをえないこどもが、孤立したり、自分の感情を押しこらしたり、自分のことを嫌いになったりといった苦悩によってのみ、こども時代がぬりつぶされないように、学校教育・生活の中で、何が必要かを改めて考え

てほしいと思っています。自分のように、幼少期や思春期におとなの言動によって傷つき、命や人生も奪われることがあってほしくない。そう思っています。

この数年、当時を振り返って、今の僕が存在するのはどうしてだろうと考えることがあります。それは親の存在だと強く感じています。学校で辛い経験をして(親は知っていたかもしれませんが)、親からは「男らしくない」「女の子じゃないんだから」などと、一切言われた覚えがありません。親というおとなとの関係が絶たれて良かった、そんな思いがします。学校ではいろいろありましたが、先生や友達の存在、経験はどれをとっても大切な思い出であり、自分が生きるうえで、大切な要素になっているとも感じています。今回は、こんな僕が今どうしているかをお伝えできればと思っています。

- ※1 中塚幹也「学校保健における性同一性障害:学校と医療の連携」日本医事新報No.4521:60-64(2010)
- ※2 いのちリスペクト。ホワイトリボンキャンペーン「LGBTの学校生活に関する実態調査」(2013)
- ※3 日高庸晴、木村博和、市川誠一「厚生労働科学研究費補助金エイズ対策研究推進事業 ゲイ・バイセクシュアル男性の健康レポート2」(2007)

人権講演会 「心の豊かさを求めて」

女らしくなく 男らしくなく 自分らしく

日本の伝統芸能に携わる太神楽曲芸師、クリスチャンの豊来家大治朗さんと落語家て天台宗僧侶の露の団まるこ姫さんご夫婦の講演会。ステージは曲芸から落語、夫婦めおととくトークで盛り上がりました。



団まるこ姫さんがかつて尼さんになりたいと親に打ち明けられたときに、「団まるこ姫は自分らしく生きたらいいんだよ」と言ってくれたことが勇気になりましたとの

お話に、会場から温かい拍手が起こりました。

夫婦めおととくトークはお二人の講演活動や日常生活、

感想

すぐに時間が過ぎた。経験談が参考になりました。可能性のある、楽しいひと時をありがとうございました。「自分らしく」という事を改めて考えさせられた。生きていくことが一番大事なこともかもしれない。素晴らしいお人柄のお二人。楽しく学習できました。



子育て、家事分担の例を挙げながら助け合い、支えあっている生活を紹介されました。とかく「男らしく」「女らしく」はよく使われる言葉で、臆にも根強く引用されますが、「自分らしく」生きる勇気と知恵を身につけ「幸せ」を見つけることを熱く語られ、忙しい日々の中で、笑いは病をも吹き飛ばす元気をいただき、夫婦のあり方のヒントをもらえた気がします。



会場は夫婦めおととくトークで盛り上がりました

第32回高槻市平和展

2017年 第32回 高槻市 平和展



平和ってなんだろう？

平成29年度「第32回高槻市平和展（主催：高槻市、企画運営：高槻市人権まちづくり協会）」が8月3日（木）4日（金）の2日間にわたって市生涯学習センターで開催されました。

今回は新たに子どもたちに平和を伝える街頭紙芝居やクイズラリーなども開催し、親子連れなど2日間を通して2,030人の方が来場されました。



特別展「いま子どもたちにつたえたい」 戦争とくらし

展示ホールでは高槻市のくらしの様子のパネルや、市民から寄贈された戦争遺品（軍服、鉄兜、千人針、慰問袋など）が展示され、戦争を知らない子どもたちなどに、戦争の悲惨さや、平和の尊さを訴えました。



特別展では軍服にゲートル（脚絆）を展示



なつかしい街頭紙芝居は大人も子どもも大喜び

街頭紙芝居「始まるよ～」

戦前から戦後の子どもたちの楽しみであった街頭紙芝居を、自転車の荷台につんで丸ごと再現。現代の子どもたちの反応は…？ 鶴ちゃん（紙芝居の語り部さん）とのやりとりを楽しみ、ハラハラドキドキ！

最後は絵本「ななしのごんべさん」を読み聞かせ、恐ろしい話の中にも命の大切さを会場に訪れた子どもたちに語りかけました。

映画「いしぶみ」を上映

「あの日、少年たちに何が起こったのか？」幼くして被爆した、旧制広島二中の321名が一瞬にして命を奪われた。いしぶみ(碑)に刻まれた彼らの最後の言葉や手記を、女優の綾瀬はるかさん(広島出身)が朗読しました。父、母、そして兄弟姉妹…戦後70年を経た今もなお続く、葛藤。

失われていく戦争の記憶が語り継がれ、会場は静まり返り、またすすり泣く声が聞こえました。



©広島テレビ

ロビーコンサート

「父の戦争体験を語り継ぐ」

語り手に不登校支援ネット「クロスロード」代表 嶋田香弥子さんとハーブ演奏の小川由美子さん姉妹をお迎えしました。

「平和」を祈念する優しさに満ちたハーブの演奏と共に、父の戦争体験をまとめられた手記を朗読。父は船の特攻隊員として呉市の部隊に所属していましたが、戦争のことについて多くを語られることはありませんでした。残された父の言葉から戦争の悲惨さ、戦友や家族への思いが感じ取られたことなど、心静かに、そして強く、平和への願いを語り伝えられました。



音楽祭(愛・いのち・平和)

出演者の中には、1歳から80年代の人もおられ、音楽の魅力を実感しました。



平和の尊さが、日本から世界の隅々へ届くことを願って、力強く優しく歌を通して訴えられました。会場の参加者も手話で唄い、場内が一体に。素晴らしい感動と共に平和の尊さを次世代につなぐことの大切さを確認したひと時となりました。



メンバーの盲導犬や白杖とともに歌いました

折り鶴

「平和展」のために、日ごろからコツコツと折りためた鶴を持参された方もおられ、来場者の折られた鶴と合わせて、一人ひとりの平和の思いが通じることを願いながら千羽の鶴に糸を通しました。

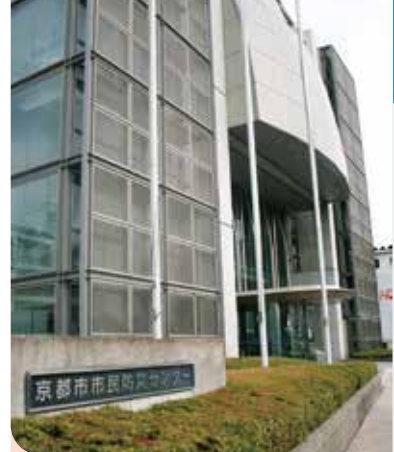
鶴を折りながら隣り合った人たちから、当時苦悩されたこと等を聞いた。二度とこんな時代を繰り返さないよう、子どもたちや孫たちへ伝えていかなければ…と語りあいました。

この折り鶴は平和への願いをこめて広島平和公園の原爆の子の像に奉納されます(昨年第31回平和展にて折られた千羽鶴は平成29年2月23日に奉納されました)。



「自分の命を守る自助意識」 「お互いに助け合う共助意識」をたかめよう

平成7年9月1日にオープンした京都市市民防災センターは、地震・火災・風水害など、思いがけず私たちの生活を襲う自然災害に対し、防災知識と行動力を高める体験型学習施設です。災害時に不可欠な知識と、消火、避難というような一連の行動を関連づけた疑似体験ができます。



京都市南区西九条菅田町7
(国道1号線十条上ル東側)
TEL. 075-662-1849

『見る』『聴く』『触れる』『感じる』 京都市市民防災センター

風速32mの強風体験や、震度7までの地震と避難行動体験、低姿勢で煙の中を進む避難体験、水の出る消火器を使用しての消火訓練、都市型水害の怖さをリアルに体験できる「4Dシアター～迫りくる地下街の恐怖」など災害時の備えや行動を体験することができます。お子様にはキッズ・ファイヤーランドやミニ消防車、ヘリのフライトを体験できるヘリフライトシュミレーターなどもあります。

感想



入館するとすぐ、受付ロボット「ペッパー」がお出迎え。「先ほど来られた方ですね」にはビックリ！ つぎの行程まで時間があつたので、チラッと寄ってすぐ出発したのに…。「よく覚えてたね」と言ったら「顔認証できます」。ロボットの進化に驚くと共に、他では類をみない？ペッパーの受け答えにほっこり。よし、次は孫を連れてここに来ようっと…。

最近、日本のあちこちで地震や局地的豪雨、そして土砂災害などが多発している。危機を感じながらも、何かしらのんびりした自分がいた。今回防災センターの体験で身近に起こるかも知れない危機を実感した。特に豪雨時の地下街での迫りくる水の恐怖、火災時の煙、暴風の威力等々。非常時には早めの行動で、自分の生命は自分で守るという強い意識を持ち行動できるよう、体験を身につける必要を強く感じた。



各コーナーでの体験や訓練など、担当の人からやさしくて厳しく適切な指導をして頂き、防災の知識や、どのような行動をしたらよいのか学習できた。ホテル等での非常口や防災グッズの確認が生死の分かれ道になる事など身につまされることばかりで、日ごろからの対応が大切であることを強く思った。

32mの強風、震度7の揺れ、煙の中で迷路のような避難体験、楽しく学べて知識も増えた。「あれがある」と、安心しきっていた台所の小型消火器。家に帰ってさっそく点検したら、とっくの昔に使用期限が過ぎていた。これを機会に寝室（こう書くと大豪邸になった気が？）に眠っている防災グッズの見直しを…。



人権いろいろ講座

会場：クロスパル高槻 7階第6会議室（総合市民交流センター）
 時間：いずれも午後2時から4時頃まで
 定員：当日先着 各100名

手話通訳

要約筆記

あり

高槻市人権まちづくり協会では、高槻市の委託を受け、子ども・女性・障がい者・外国人・高齢者・同和問題や社会状況にともなう様々な人権について学ぶ連続講座を開催しています。参加は自由で一回だけでも構いません。お気軽にご参加ください。

とき	講師	テーマ	講演内容
9/29 金	 公益財団法人 とよなか国際交流協会事務局 やまのうえ たかし 山野上 隆史さん	多文化共生の まちづくり	それぞれの文化を尊重し、理解しあうために、お互いのことを”知る”ことが大事なのではないでしょうか。当日は多文化共生のまちづくりについて学びます。
10/6 金	 NPO法人認知症の人と みんなのサポートセンター代表 おきた ゆうこ 沖田 裕子さん	認知症と ともに生きる	認知症とは何でしょうか。認知症になっても安心して地域で暮らしていけるよう、一緒に考えてみませんか？
10/13 金	 NPO法人DDAC (発達障害をもつ大人の会)代表 ひろの 広野 ゆいさん	大人の発達障害	31歳でADHDの診断を受けた発達障害者の体験談から、発達障害とは何か、特性を活かし、ありのまま自分らしく生きるためのヒントをお話していただきます。
10/20 金	 特定非営利法人 虹色ダイバーシティ はしもと りゅうじ 橋本 竜二さん	知っておきたい LGBT	身近にLGBT（性的少数者）の方はいますか？ 友だちや家族、職場の同僚に打ち明けられたら？ LGBT、性の多様性について、基礎知識から学んでみませんか？
10/27 金	 近畿大学教授 おくだ ひとし 奥田 均さん	部落差別解消 推進法について	平成28年12月部落差別解消推進法が施行。現在もなお部落差別が存在すると明記され、部落差別の存在が認知されました。部落問題の現状や差別解消推進法についてわかりやすく学びます。

社員研修

訪ねて 姫路平和資料館を

6月29日梅雨空の下、姫路市平和資料館（姫路市手柄山公園内）にて社員研修を実施しました。姫路市平和資料館は「平和都市宣言」「非核平和都市宣言」に基づき、戦争の惨禍と平和の尊さを後世に伝えるため、空襲に視点を置いた資料館です。三木館長から姫路空襲の説明を受けました。

常設展示では当時の市民生活や、戦火から姫路城を守る様子の写真やパネル、全国空爆による被害が棒グラフ、数字により表された資料などが、視覚的に分かりやすく整理、展示されています。またジオラマで再現される、轟音とともに閃光、地響きの空襲を体験しました。

春季特別企画展では、本協会発行の情報誌あくていぶ64号「あちこち訪問」で紹介しました^{うずらの}鶉野飛行場^{はくろたい}姫路海軍航空隊（白鷺隊）の特攻について貴重な資料・写真を見学。国や家族を思い、若くして南の海に散った若者の辞世の句に、胸が熱くなる想いでした。

資料館のすぐ近くにある太平洋戦全国戦災都市空爆死没者慰霊塔（太平洋戦争中の空爆その他による犠牲者で、軍人軍属以外の50万9,700余の死没者が供養されている）に参拝し、最大の人権侵害といわれる戦争を二度と繰り返さないとの思いと、恒久平和を祈念しました。



人権啓発作品を募集しています

平成29年度人権週間記念啓発作品（標語・絵画・作文）を募集しています。応募された作品は、部門ごとに審査を行い、12月8日（金）9日（土）に開催する「人権を考える市民のつどい」で表彰や入選作品の展示などを行います。

- 【募集部門】
- ①標語 未発表・創作・長さ自由
 - ②絵画 ポスターを含む
(A) 手書き：未発表・創作・用紙サイズは画用紙四つ切
(B) パソコン：未発表・創作・用紙サイズはA2サイズ以下
 - ③作文 未発表・400字詰めで原稿用紙4枚以内
(読書感想文を含む)

※作品の応募は原則、各部門一人につき1点です。

【応募資格】 市内に居住または、通勤・通学・通園する人

【募集作品】 主なテーマ
 ・人権の尊さ ・お互いの人権を守ること ・平和 ・勇気
 ・いじめをなくそう ・差別のない町 ・国際理解
 ・多文化共生 ・助け合い ・高齢化社会
 ・ノーマライゼーション ・バリアフリー
 ・LGBTQ（性的マイノリティ）への理解 etc.
 ※その他、人権・平和についてのテーマであれば可

【募集期間】 平成29年10月13日（金）必着

【応募方法】 応募作品に※別記様式に必要な事項を記入のうえ、作品の裏面へ貼り付けして応募先へ郵送または、持参してください。
 (当協会ホームページからダウンロードできます。

<https://www.takatsuki-jinmati.org/>)

【応募先】 〒569-0067 高槻市桃園町1番1号エムビル201
 一般社団法人高槻市人権まちづくり協会事務局
 TEL. 072 (674) 7878 FAX. 072 (674) 7877

人権を考える市民のつどい



松本 隆博氏を迎え講演会

(ダウンタウン松本人志氏の実兄
シンガーソングライター)

日時 12月9日(土) 午後2時～4時

会場 市生涯学習センター
2階 多目的ホール

定員 先着300人 (入場無料)

市役所前、いつものようにバスを待っていると、数匹の蚊がまとわりついてきた。「あなた、お酒飲みはる？ 私には寄ってけえへんがな」と年輩の女性。「いえ、飲みません」「タバコは？」「全く」「ほんなら甘いもん、好きなん？」「いえ、ほとんど」「じゃあ、何が楽しみで生きてはんの？」「「フン・チ」「へえ、私は買ひもん好きでな。ほれ、靴に洗剤それに食料品。バス代いらんで、高槻、ホンマ助かるわ」と、彼女言わく、「私のベンツ」の手押し車の中身を広げた。

「ところで、ランチの安くて美味しいところ、おせーて。本日の編集会議の後に立ち寄った店など、全て千円で硬貨数枚もどってくるお店を、あそこ、こちらと指さしていたら、「あっバスが来たわ。またねー」と高槻のおばちゃん代表？は「富田行」のバスの中へと吸い込まれていった。

あー、また続きがあったんだけど、「またねー」がほんとなって欲しいなあ。

いいね！ 高槻って…。

編集後記

第3中学校区地区単位会が立ち上がりました

平成29年4月28日（木）に寿栄コミュニティセンターにおいて、第3中学校区地区の多数の会員がつどい、正式に地区単位会の立ち上げとなりました。

これにより高槻市では合わせて15地区単位会となりました。

知っておきたい こんなマーク

ヘルプマーク

ヘルプマークとは、義足や人工関節を使用している方、内部障害や難病の方、または妊娠初期の方など、外見から分からなくても援助や配慮を必要としている方々が、周囲の方に知らせるマークです。ひとり、ひとり必要な援助が違います。「なにかお手伝いできることはありますか」の一声を。



バギーマーク

まるでベビーカーのような見た目ですが、子ども車いすは福祉用品です。病気や障害が理由で“これがないと移動できない”子どもたちが使用しています。電車の中でも折りたたむことができません。そっと見守ってください。

